平成 29 年 12 月 19 日

AGU Fall meeting 2017 参加報告

氏名：藤山雅士
所属 ： 工学研究科 町田研究室（修士 2 年）
滞在期間：平成 29 年 12 月 10 日～12 月 17 日
滞在先：ニューオリンズ
滞在国：アメリカ合衆国

今回私は、アメリカのルイジアナ州ニューオリンズで開催された American Geographical Union (AGU) Fall meeting に参加させていただきました。世界中から地球惑星科学に関する研究者が一同に介する国際学会であり、会場はとてつもなく広く、自分の聴講したいセッションの場所まで辿り着くのも一苦労でした。

私は「Solar Surface Velocity in the Large Scale estimated by Magnetic Element Tracking Method」とう題目で初日にポスター発表を致しました。内容としては、今まで太陽表面の動きを捉えてきた先行研究が数多ある中、新手法を用いてその動きを捉え、新しい観点から表面の動きを考察したというものです。多くの方が私のポスターを見に来ていただき、議論を交わしました。頂いた意見の中には、私自身が全く考えていなかった、さらに別の観点からの考察を提案してくれた方もいらっしゃり、大変有意義な時間となったと思います。しかしながら、自分の伝えたいことが上手く伝わらず、質問で同じ事を何度も聞き返されたこともあり、自分の英語力の拙さを後悔しました。とはいいつつ、苦労しながらも、研究成果を報告できたことは、私にとって大きな経験になったと感じます。

また会場では、私自身が研究を進める上で読んだ論文の著者達が作成したポスターも貼られており、そのような方々の同じ舞台に立てていることに非常に感銘を受けました。そのため、自分の発表だけでなく、彼らのポスターを聴講しに行き、議論を行いました。その一人が、私が研究を進めるに当たって大いに参考にした、磁気要素検出(Magnetic Element Detection)に関する多くの論文を発表している Derek A. Lamb 氏 [1] です。彼は磁気要素検出から太陽表面磁場のフラックスロープの数値計算を行う新手法を開発し、それによって大きな計算コストの縮小に成功したという内容で報告を行っていました。外国人の口頭発表については数多くの講演を今まで聞いてきましたが、ポスター発表を聞くのは実は初めてです。やはり世界で活躍する研究者だけあって、ポスター一枚に掲載している情報量や、それを使っての説明が非常に明快で、今後自身の発表に対する参考になる箇所が数多く有りました。

以上のように今回の出張では、非常に有意義な経験をさせていただきました。このような機会を与えてくださった若手海外支援プログラム及び、その関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

＜参考文献＞

[1] Lamb, D. A. (2017). Measurements of Solar Differential Rotation and Meridional Circulation from Tracking of Photospheric Magnetic Features. *The Astrophysical Journal*, *836*(1), 10.

＜指導教員＞

今田 晋亮